

(8) ¹⁴C年代測定結果

三瓶小豆原埋没林の形成時期と、形成に関与した三瓶火山噴出物との関係を明らかにする目的で¹⁴C年代測定を実施した。

試料は三瓶小豆原埋没林の埋没立木 (A-1, A-9) の幹材, C調査区の火砕流堆積物に包含される炭化木片, 大田市三瓶川埋没林の埋没立木の4試料である。測定はBETA ANALYTIC社 (米国) に依頼して実施した。測定結果を表4.1.9-1に示す。

表4.1.8-1 ¹⁴C年代測定結果一覧

試料名	測定方法	測定年代 (yr.B.P.)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正年代 (yr.B.P.)	暦年代 (cal age, 2 σ)	測定番号	備考
A-1-s	AMS	3,520±50	3550±50	BC1,985-1,745	Beta-127662	A区立木
A-9-s	AMS	3,740±40	3750±40	BC2,285-2,030	Beta-142343	A区立木
C-S9901	AMS	3,590±40	3316±40	BC2,115-2,095 BC2,040-1,885	Beta-132138	C区火砕流 炭化木片
HD-1-s	液体 シンチレーション	3,710±60	3,680±60	BC2,205-1,895	Beta-128286	日の出橋

埋没立木から得られた年代値は、3,550±50yr.BPと3,750±40yr.BPである。値には200年の差がありクロスチェックの必要があるが、¹⁴C年代測定の性質上、同時代の試料であっても供分析試料の状態等によって測定値に差が生じる可能性があるため、現時点ではこの差は有意なものとは判断していない。C調査区の火砕流堆積物に含まれる炭化木片から得られた3,316±40yr.BPについても同様である。

これらの年代値は三瓶火山の第Ⅵ活動期の年代 (約3,600年前) と重なることから、この時の活動が三瓶小豆原埋没林の形成に直接関わったと考えられる。

また、従来は三瓶火山の北麓に分布している火砕物は第Ⅴ活動期の噴出物が主体と考えられていたが、今回、埋没立木および火砕流堆積物から第Ⅵ活動期を示す年代値が得られたことで、三瓶火山噴出物の分布と火山活動史を再考する必要性が生じた。

3,316~3,750yr.BPという年代は、歴史時代区分では縄文時代後期に相当する。三瓶山東麓の志津見地区では、縄文遺跡を第Ⅴ、Ⅵ活動期の噴出物が覆っていて、土器編年によってもそれぞれの活動期の時代が明らかにされている^(註)。

(注) 島根県供委員会による志津見ダム建設予定地内の埋蔵文化財発掘調査成果。建設省中国地方建設局・島根県教育委員会 (1997) 「板屋Ⅲ遺跡」などで報告されている。